

令和6年度【大田区立東調布第一小学校・外国語授業改善推進プラン】

◎ 小学校外国語科における分析

児童の実態	知識・技能	・目標値を上回っている。 ・身近な単語を聞き、その意味を理解することができている。 ・音声を聞いて文字を識別する問題は他と比べて正答率がやや低下している。 ・大文字と小文字を識別し、正しい読み方を理解できているが、正しく書く問題では正答率が少々下がる。
	思考判断表現等	・目標値を上回っている。 ・音声で聞いて理解した内容を文字で表現することができている。 ・例文を参考にしながら、自分の伝えたいことについて簡単な語句や基本的な表現を用いて書く問題は目標値よりやや低い。 ・ALT が話した内容についてイメージがもてずに理解することが難しい児童がいる。
	主体的に学習に取り組む態度	・目標値とほぼ同等。 ・相手意識をもち、既習した事項を基に積極的にコミュニケーションを図ろうという意欲が低い児童がある。 ・アルファベットごとの発音の仕方を知り、その音から始まる身の回りの言葉を意欲的に集めている。

◎ 外国語科の課題

- ・聞き取りや発話については慣れ親しみ、発表も意欲的に取り組む様子があるが、他者と関わり積極的に英語によるコミュニケーションを取ろうとする意欲付けが必要である。
- ・外国語が面白い・楽しいと感じられることを大切にするとともに、児童の発達段階・学習段階に沿い、児童が最後まで意欲的に取り組めるような学習展開を研究する必要がある。
- ・簡単な英単語の理解力はあるが、英作文問題が苦手な児童が多いため、単語の活用を行っていく必要がある。

◎ 外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果◇と課題◆

- ◇ 多様なアクティビティを取り入れたことにより、児童の外国語活動に対する関心を高めることができていた。その結果、授業において児童は活発に活動するようになっていた。
- ◆ ALT が話したことについて、完璧に理解ができないと不安になって活動にスムーズに入れず、説明を日本語にしてもらうことを待つ児童がいる。
- ◆ アルファベットの理解力に個人差が大きい。読む力だけでなく、書く力も必要になってくるため、低学年から文字に触れる機会を作る必要がある。

◎ 外国語科の具体的授業改善案

＜意欲付け＞

- ・英語によるコミュニケーションが意欲的に行えるようにするために、多様なアクティビティやゲームを効果的に用いて題材に対する興味・関心を高め、段階を踏みながら取り組む必要がある。
- ・外国語が面白い・楽しいと感じられるようにするために、ALT と連携しながら授業を展開するとともに、一人一人への具体的な言葉掛けをしていく。

＜文字学習の工夫＞

- ・アルファベットの書き方の確実な定着を図っていくために、4線を用いて大文字と小文字の書き方を継続的に指導していく。

＜思考力の向上＞

- ・聞き取りや推測する力の習得を目指し、教師やALT の指示はすぐに日本語に訳すことはせず、デモンストレーションを見せてどのような活動をするのか理解できるようにする。
- ・Small talk を授業の中で取り入れて、学習した単語がどのように活用されているのかや相手が何を伝えようとしているのかを考える時間を大切にする。